

特定海域養殖業推進調査

(要 約)

涌坪 敏明・中西 廣義・横山 勝幸・鹿内 満春・泉田 哲志¹⁾

本調査は、本県外海域における養殖技術を開発し、外海域魚類養殖の推進を図ることを目的としている。平成6年度の調査結果の概要を以下に報告する。

なお、詳細については、「平成6年度特定海域養殖業推進調査報告書(北日本ブロック)」(平成7年3月、北海道・青森県・秋田県・石川県)として報告してある。

ここでは、平成5年7月12日に発生した津波により、養殖施設に被害がでたため、試験の見直しを行った平成5年8月3日以降を中心に調査結果について報告する。

(1) 水 温 環 境

夏場に高水温の期間が続いた。大量へい死はなかったものの、餌食いが悪かった。

(2) 餌料別飼育試験

餌料別の飼育試験は市場価値の備わる大きさに達する5月までとした。今回設定した収容密度ではドライ区、モイスト区ともこの期間中の成長には大きな差はなく、どちらでも当初目標とした飼育3年目の夏場に全長25cm、体重400g程度のクロソイの飼育が可能であった。

(3) 魚 病 調 査

昨年大量へい死がみられた寄生虫被害について、適切な対応(塩水浴)で被害の発生を防ぐことができた。

(4) 肉質分析試験

ドライ区では水分が少なく、粗蛋白、粗脂肪が多い傾向であった。

(5) 市 場 調 査

市場調査を行ったところ、夏場を中心に天然のクロソイ及び他の魚の水揚げが少ないため、販売単価が高く見込めることがわかり、この時期に出荷したところ養殖したクロソイの単価は1,350円/kgと高い評価が得られた。

(6) 試 食 試 験 等

養殖クロソイの比較食味試験及び地元での試食試験を行ったところ、味に遜色はなく好評を博している。

1) 青森県水産物加工研究所